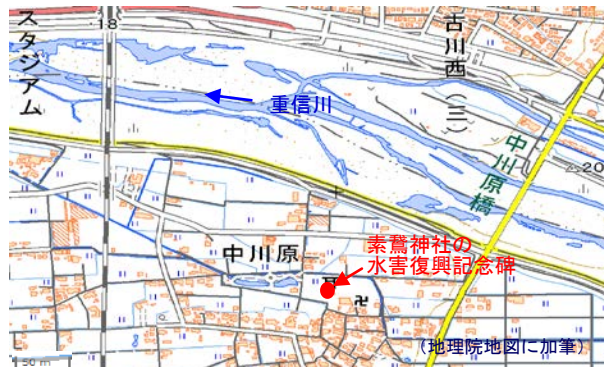


復興に力を尽くす

災害が起こっても、人々は災害に負けずに、復興に力を尽くしてきました。今回は、愛媛県松前町と高知県土佐市の復興の取り組みに関する情報をお伝えします。

■水害復興記念碑（愛媛県松前町中川原の素鷲（そが）神社内）

昭和 18 年（1943）7 月 21 日～24 日、台風のため松山地方は豪雨となり、松山測候所では 4 日間で平均雨量 5 ヶ月分に相当する約 540 ミリの降雨を記録しました。重信川は増水し、23 日午前 9 時に北伊予村（現松前町）徳丸地先の左岸堤防が決壊し、続いて岡田地区 6 箇所も決壊し、耕地の流失・埋没 1,730 町歩、家屋の浸水約 12,500 戸等の被害を受けました。「松前町誌」には、当時の相川知事が復興のため自らモッコを担いで連日陣頭指揮をとり、勤労奉仕隊を前に次のように話したと記されています。「諸君、これしきのことで悄気（しよげ）てはならぬ。気を落としてはならぬ。私も大いにやる。諸君もうんと頑張ってくれ……」戦時中で資材も人力も不足する中、みんなで精いっぱい復興に努めていた様子が伝わります。中川原の素鷲神社に水害復興記念碑が建立されています。（参考資料：松前町誌編集委員会編「松前町誌」（1979 年）>



■復興之塔（高知県土佐市の土佐市民公園内）

昭和 50 年（1975）8 月 17 日、台風 5 号は仁淀川上流を中心に集中豪雨をもたらしました。土佐市では鳴川・天崎・末光の山崩れ、用石堤防の決壊、用石、高岡市街地、家俊付近の床上浸水などが発生し、被害は市内一円で死者 6 人、重軽傷者 74 人、家屋の全半壊 98 戸、床上浸水 2,255 戸等に及びました。水害後、高岡の市街地ではたたみ、家財道具、商店の商品などが街角の至る所に山と積まれ、用石の県道沿いにもゴミの山がうず高く積み上げられていたと言います。それでも、人々は懸命に復興に取り組んできました。土佐市民公園にある復興之塔の前に立つと、私たちは水害に負けずに復興に取り組んできたのですよという先人のメッセージが聞こえるように感じられます。<参考文献：土佐市史編集委員会編「土佐市史」（1978 年）>

